

日本 TDM 学会 第 43 回 TDM セミナー

テーマ:臨床系教員・病院薬剤師のための TDM セミナー

本セミナーは、臨床系教員・病院薬剤師を主な対象とし、両者のコラボレーションを推進することで、TDM 研究を活性化し業績にまでつなげていくことを目的としています。研究遂行・論文作成の障壁をどのように乗り越えていったらよいのか、具体的でわかりやすい内容でセミナーを行います。

日 時: 2015 年 8 月 29 日(土) 13 時~17 時

場 所: 武蔵野大学薬学部(東京都西東京市新町 1-1-20)

会 長: 三原 潔(武蔵野大学薬学部 臨床薬学センター)

参加費: 無料(日本 TDM 学会会員)、500 円(非会員)

主 催: 日本 TDM 学会

内 容:

① アンケートの解析結果(事前にアンケート調査を実施します)

TDM 研究のニーズ

実務家教員と病院薬剤師との共同研究のポイント

② 実例紹介:「TDM 研究」に発表された論文の著者を対象(未定)

③ 最近の TDM 研究のトレンド:日本 TDM 学会理事 谷川原祐介 先生

申込方法:下記の申込先宛てにメールでお申し込みください。メールの件名を「日本 TDM 学会第 43 回 TDM セミナー参加希望」とし、氏名(ふりがな)、所属、メールアドレスをご記入ください。アンケート調査のファイルを後日メールにて返信いたします。

申 込 先: k_mihara@musashino-u.ac.jp

申込期限: 2015 年 6 月 26 日(金)

アンケート回答期限: 2015 年 6 月 30 日(火)

臨床系教員・病院薬剤師のための「TDM セミナー」趣意書

臨床系教員（実務家教員）と病院薬剤師の現状

実務実習事前学習、OSCE、実務実習など臨床系教員の業務量は際立って多いにもかかわらず、その地位は相対的に低く大学の運営方針に深く関与することも少ないのが現状です。その原因の一つに、研究活動が滞っていることが挙げられます。若手の臨床系教員であればキャリアアップを目指したいところですが、研究業績を積み重ねなければ目的を果たすことはできません。一方、病院薬剤師も病棟常駐など業務量が増大し研究に割く時間が取れないとか、研究を進める上で指導者がいない等の問題を抱えているのではないのでしょうか。

自分たちの置かれた環境で研究成果を上げる「TDM 研究のすすめ」

今後、新コアカリキュラムの導入により臨床系教員や薬剤師の負担はさらに重くなると考えられ、そうした状況で細胞培養や動物実験を実施することは難しいでしょう。限られた時間で研究実績を上げるには、自分たちの置かれた環境を利用することです。すなわち、医療現場との窓口を担っている立場は、病院薬剤師とのコラボレーションを行いやすいというメリットがあります。そこで、本セミナーでは TDM 研究の実施を提案します。TDM 研究は血中濃度と薬効・副作用を扱い、日本 TDM 学会や国際 TDM 学会より学術雑誌が発行されていることから、研究成果を論文として発表しやすいという利点があります。大学の臨床系教員が TDM 研究を行うために、また病院薬剤師とコラボレーションするために何が必要かを、今回のセミナーで議論したいと考えています。

本セミナーの特色

臨床系教員の多くは定期的に医療現場で研修を実施しているため、病院薬剤師との共同研究を行いやすい状況にあります。しかし、研究の着想や計画、データの入手と整理、データ解析、効果的な結果の提示、論文作成、参考論文の選定、雑誌への投稿、さらには英語への対応など、十分な知識と経験がない教員や病院薬剤師にとって論文発表は敷居が高いと感じているのではないのでしょうか。本セミナーは、ステップ・バイ・ステップに目標を達成できるよう、研究の計画段階から論文投稿までの一連の作業過程に焦点を当て、具体的にどのように進めていくのか演習を通じて理解を深められる内容を目指します。また、業績のみでなく TDM の専門家として臨床現場で薬剤師を指導できる実力をつけることも目標の一つにします。

また、参加者のニーズに合わせて内容を充実させていきたいと考えています。「いまさら聞けない」TDM 基礎理論などもセミナーに組み入れることも可能です。定期的にアンケート調査を行いますのでご協力をお願いいたします。